



る。光検出部5は入射光強度に比例した電圧を出力する。6は銀光灯2、2'、ロッドレンズアレイ3、ノーマンチ4を中心配置ユニットであり、図中矢印5方向に銀板台と平行に動き、銀板に配置された銀板を割り離す。銀光灯2の光源は、光板用5の出力が所定の量になると銀光灯の光量を制御することにより行う。

光明が單独しようとする銀板点しかねば、光源を銀板台と銀板等に作用するノーマンチと、銀板から反射する反射鏡もしくは透光板モイナサと、銀板上の反射鏡もしくは透光板モイナサと、銀板上に配置する光等点と、銀板等の光板もしくはノーマンセンサの直角屈折ばらつきを補正するノーマンチ搭載屈折路、白色銀板

しかしながら上記のような構成では、光検出部は銀光灯の一部をモニタしているのみであるので、銀光灯の両側部の光量が低下したときや、ノーマンチの屈屈が温度により変化する場合などには正常な銀光が見えないという問題を解消していた。

本発明は上記明細点に備み、光板の部分的な光量の低下や、ノーマンセンサの屈度が温度特性をもつ場合でも正常に操作を行い、もし屈光不能など光板の光量低下が厳しいときは、その目をナレーターに表示し、光板の交換を促すという機能を有した銀板点取り装置を提供するものである。

うに光板の重節り、もし開節不可能な場合には該点を取り除してオペレーターにその旨を知らせることとする。

#### 実施例

以下本発明の銀板点取り装置の実施例について図面を参照しながら説明する。

第1図は本発明の銀板点取り装置の剖面構成によ

る。シート4からのアラゴン酸銀板5はノーマンチ搭載屈折路5で入り戻路及びノーマンチ出力部6を経てオペレーターにその旨を知らせることとする。

以下本発明の銀板点取り装置の実施例について図面を参照しながら説明する。

第1図は本発明の銀板点取り装置の剖面構成によ

る。シート4は銀板台7、2は銀光灯2'、3はロッドレンズアレイ3'、4はノーマンチ4'を含む開節可能な開節ユニットであり、図中矢印9方向に開節台と平行に動き、銀板等に配置された銀板を割り離すための命令を、データバス3'を介して送る。

第1図は本発明の銀板点取り装置のプロック

図である。6はノーマンチ5から出力されるとアラゴン酸銀板5と、6'はADコンバータ、6'はノーマンチ搭載屈折路5からの出力信号14は白色銀板2'の屈折ハイスペル電圧(電圧BRT)を発生する電源、6'はADコンバータ5'の出力信号15は白色銀板2'の屈折ハイスペル電圧である。CPU5'はデータバス3'を介して光量を調節するための命令を、

データバス3'を介して送る。

第4図はノーマンチ搭載屈折路のプロック図である。6'はノーマンチ5から出力されるとアラゴン酸銀板5と、6'はADコンバータ、6'はノーマンチ搭載屈折路5からの出力信号14は白色銀板2'の屈折ハイスペル電圧(電圧BRT)を発生する電源、6'はADコンバータ5'の出力信号15は白色銀板2'の屈折ハイスペル電圧である。CPU5'はデータバス3'を介して光量を調節するための命令を、

データバス3'を介して送る。

第4図はノーマンチ搭載屈折路のプロック図である。6'はノーマンチ5から出力されるとアラゴン酸銀板5と、6'はADコンバータ、6'はノーマンチ搭載屈折路5からの出力信号14は白色銀板2'の屈折ハイスペル電圧(電圧BRT)を発生する電源、6'はADコンバータ5'の出力信号15は白色銀板2'の屈折ハイスペル電圧である。CPU5'はデータバス3'を介して光量を調節するための命令を、

データバス3'を介して送る。

第4図はノーマンチ搭載屈折路のプロック図である。6'はノーマンチ5から出力されるとアラゴン酸銀板5と、6'はADコンバータ、6'はノーマンチ搭載屈折路5からの出力信号14は白色銀板2'の屈折ハイスペル電圧(電圧BRT)を発生する電源、6'はADコンバータ5'の出力信号15は白色銀板2'の屈折ハイスペル電圧である。CPU5'はデータバス3'を介して光量を調節するための命令を、

データバス3'を介して送る。

第4図はノーマンチ搭載屈折路のプロック図である。6'はノーマンチ5からの出力信号14は白色銀板2'の屈折ハイスペル電圧(電圧BRT)を発生する電源、6'はADコンバータ5'の出力信号15は白色銀板2'の屈折ハイスペル電圧である。CPU5'はデータバス3'を介して光量を調節するための命令を、

データバス3'を介して送る。

第4図はノーマンチ搭載屈折路のプロック図である。6'はノーマンチ5からの出力信号14は白色銀板2'の屈折ハイスペル電圧(電圧BRT)を発生する電源、6'はADコンバータ5'の出力信号15は白色銀板2'の屈折ハイスペル電圧である。CPU5'はデータバス3'を介して光量を調節するための命令を、

データバス3'を介して送る。

点滅は明るさでシェーディング補正のために  
白色LEDがオーバーフローしていることから  
なる。又フリップ・フロップの出力28が  
ロードレベルで、ロフリップ・フロップ21の出力  
29がハイレベルのとき、発光灯は暗すぎてシユ  
ーディング補正のための白色LEDデータアンダーア  
ンブローラーしていることになる。Dフリップ・フロップ  
のときは、白色表示用にごみ等が付着している  
ことなどが考えられる。CPU54は、発光操作  
回路の状態、すなわちDフリップ・フロップのQ  
出力28、29を既に前に、Dフリップ・フロッ  
ップ26、27をリセットする必要がある。CPU54  
は発光操作回路の状態を読みつつ、発光灯の光量  
をかけて、Dフリップ・フロップのQ出力28、  
29がともにローレベルであるようにする。CPU  
24は、発光灯の光量を四段階程度まで緩  
やかに調節させてモフリップ・フロップのQ出力28、  
29がともにローレベルにならないときは、1/10  
ポート31を介して2D38を点燈し、西光が

正常にできないことを知らせる。

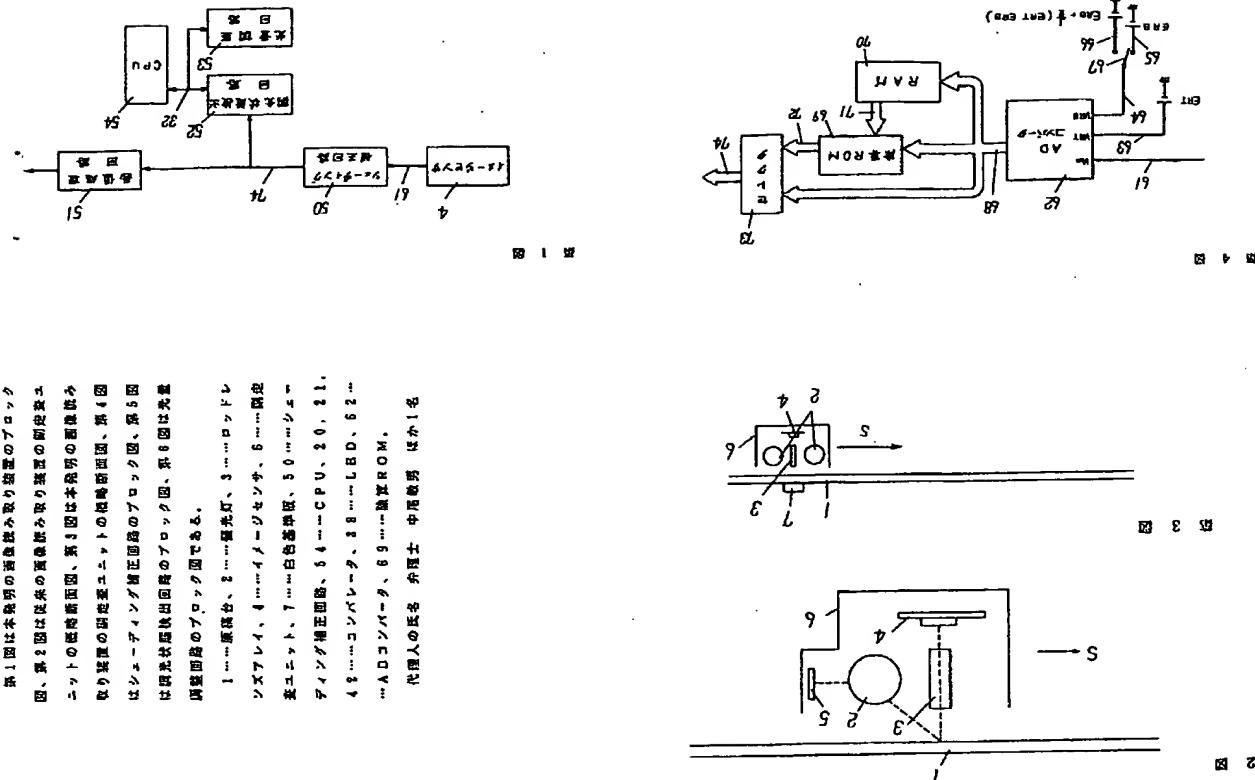
試し6を用いて光量監視回路5について説明する。試し6は光量監視回路のブロック図である。図3はCPU54のデータバス、40はノードポート、41はノードポート40の出力でデータ端子は8ビットである。45はイメージセンサの光量検出時間の256分の1の周期を持つPWMクロックである。46は8ビットカウンタ、47は8ビットカウントデータ41の出力、42は8ビットのコントローラととする。コンバータ43はコンバータ42の出力、46は蛍光灯点燈回路である。CPU54はノードポート40を介して蛍光灯の光量監定データ41を監定する。カウンタ44はPWMクロック45をクロック入力とする。コンバータ43はカウント出力47と光量監定データ41を比較し、光量監定データ41よりカウント回数41の方が大きいかレベルになる信号43を出力する。該蛍光灯が点燈回路46はコンバータ42出力43がレベルのとき、蛍光灯を点燈させる。これにより光量監定データ41を覚えることにより、蛍光灯

第1回は本気男の面倒見取り装置の前半章、  
図、第2回はほんの面倒見取り装置の前半章、  
第3回はほんの面倒見取り装置の前半章、  
第4回  
はシードィング修正回路のブロック図、第5回  
は回光状態検出回路のブロック図、第6回は光量  
調整回路のブロック図である。

1 ……原稿台、2 ……置光灯、3 ……ロードレ  
ンズアレイ、4 ……イメージセンサ、5 ……閾値  
変ユニット、7 ……白色基準原、5 0 ……シャー  
ディング補正回路、6 4 ……CPU、2 0、2 1  
4 2 ……コンパレータ、3 8 ……LBD、6 2 …  
…A ロゴンバーダ、6 9 ……FLASH ROM。

代理人の氏名 中尾敬男 ほか1名

の点検時間が短くなり光度を測定することができる。  
次にCPUのプログラムのフローを説明する。  
初期設定画面にて、西暦表示の要求があるとノード番号14に製光灯の光量監定期制データを設定し、監光灯を点燈する。次にロフリップ・フロップ28、27モリセットした後、シェーディングゲージ正回路50を白色遮断データ取り込みモードに切换する。シェーディングゲージ正回路50が1ライン以上上データを取り込む時間が経過した後、CPUは初期光量状態出回路51のロフリップ・フロップ26、27のQ出力28、29をもとに出力26、27がともにローレベルになるよう、光量調整回路53の光量監定期データを閾値とする。閾値は出回路51のロフリップ・フロップ26、27のQ出力28、29をもとにQ出力26、27がともにローレベルになつてないときは、光量調整回路53の光量監定期データを変更した後、フリップ・フロップ26、27モリセットしシェーディングゲージ正回路51の光量監定期データを変更した後、フリップ・フロップ26、27モリセットしシェーディング



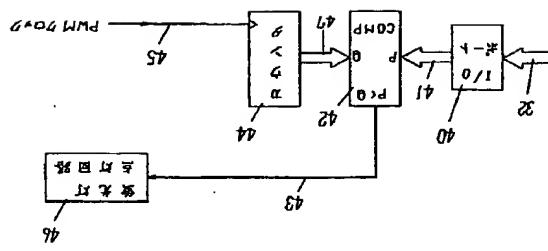


图 6

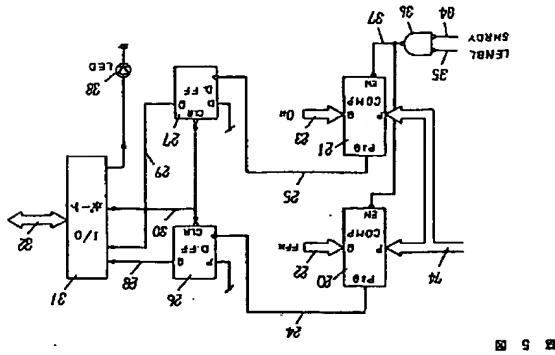


图 5